

アメリカ・ホームステイ徹底準備マニュアル

この冊子はアメリカでホームステイする方のために作成されたものですが、アパートを予定されている方にも参考にしていただけるものと思います。ルールやマナーを守って留学生活を楽しんで下さい。



留学&ホームステイ

リーハイクラブ

〒589-0013 大阪府大阪狭山市菜葉木 7 丁目1180

TEL 072-365-2272

<http://www.lehiclub.com/>

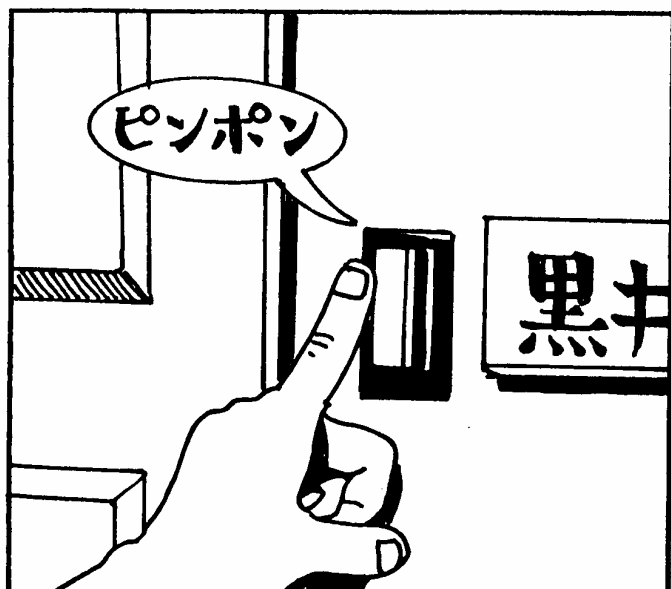
制作 International Communication & Education (ICE)
11726 Shady Oak Lane Sandy, Utah 84902 U.S.A.

Copyright © 2003 by Shu Yamamoto

All rights reserved. No part of this book may be reproduced or transmitted in any form or by any means, including photocopying without permission in writing from the copyright owner.

著作権所有：山本俊一 (Shu Yamamoto)

著作権所有者の許可なくこのマニュアルの一部または全部を引用、転用、コピーすることはできません。



そうなんです。ユタ州で約2週間ホームステイすることになったんです。それでホームステイについていろいろ教えてもらおうと思って伺ったんです。



まずホスト家族に会うときの自己紹介からやってみましょうか？ Hi, My name is Kenta.



© S. Yamamoto

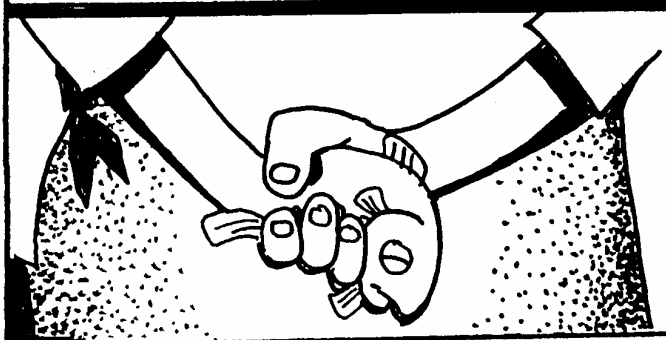
日本人の多くが犯す間違いは自己紹介の時に姓と名、つまりフルネームを言ってしまうことなんです。ファミリーネーム（姓）は尋ねられない限り、言わなくていいんです。彼らは君が誰であるかを知りたいのであって、どの家系に属しているかを知る必要はないんです。それにシロウタケダと言った

ところで、彼らにとってはどこからどこまでが名で、どこからどこまでが姓かがわからないんです。



そう、いいですねえ。

元気よく、にこにこして、しっかりと握手をしてくださいね。アメリカではしっかりしていないハンドシェークは「死んだ魚のハンドシェーク」と言うんです。特に女の子はこういうようにならないよう気を付けてください。



と言われてもキョトンとしていることがある。僕も何回かそういう失敗をしましたが、相手が自分の名前を言って握手を求めてきたら、「私は誰々です。あなたは誰ですか？」あるいは「私は誰々です。はじめまして」と言っているのと同じなんです。だからすかさず



I am Shiro.
Nice to meet you.

と言わなくちゃいけないんです。じゃあ、やってみましょうか？

じゃあ、こんな風にすればいいのかしら。

Hi, my name is Rie.



Hi, my name is Shiro.

It's nice to meet you.

Good to meet you.

一般に紳かしがり屋の日本の社会では、仲介者を通しての紹介はあっても、自分からする「自己」紹介についてはアメリカ人ほど慣れていませんね。ですから

Hi, my name is Steve.

とか

Hi, I am Steve.



そうするとこういう具合ですか？

Hi, my name is Rie.

Hi, I am Kenta

Nice to meet you.

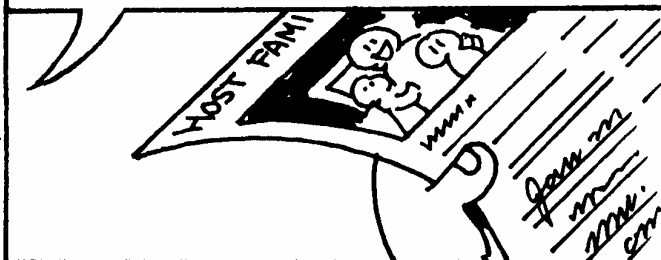
Nice to meet you too.



上等、上等、その調子。自己紹介に関係あるけれど、君たちはむこうでホストに会う前にホストの人たちの名前は判るんでしょ？

はい、ホストインフォメーションシートをもらいました。

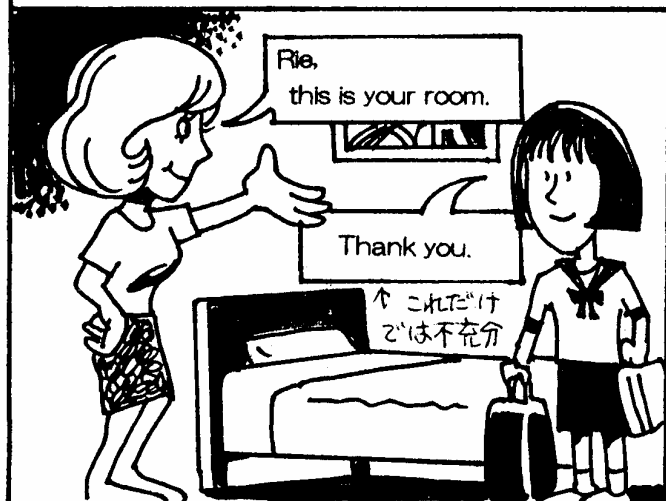
それなら、せめてそこに記してあるホストペアレンツや子供が居れば子供の名などは暗記していかなければ失礼だと思うよ。アメリカ人は彼らにとって言いにくい日本人の名前を一生懸命に覚えて言う努力をするんだから、君たちも同じように彼らの名前はちゃんと言えるようにしておかないといけない。



アメリカ人はコンプリメントがとってもうまい。コンプリメントというのは、相手の良いところを見つけてそれをほめる、賞賛することです。ひんばんに使われる例かもしれないけれど、これを見てごらん？



だからたとえばホストの家に来てまずあなたのベッドルームに案内されたらー

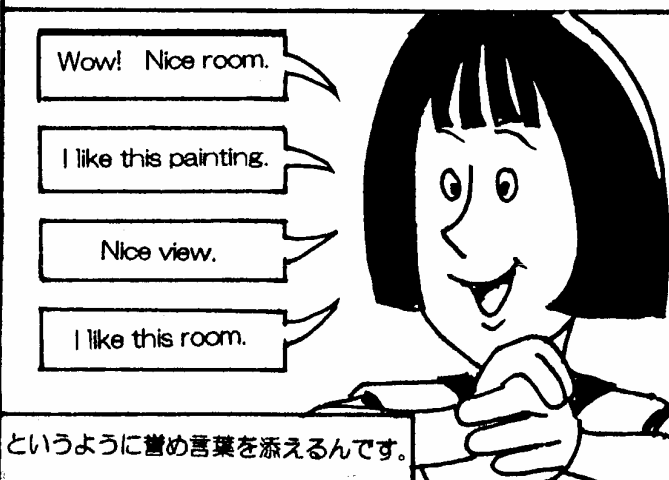


さて、話をもとに戻しますが、なんとか最初の挨拶まではできるんですが、その先が出てこないんです。でも基本的にはコンプリメントを言うことに尽きるんです。



そう。これを見てアメリカ人は"Half Full"と表現する。コップに半分の水が入っているという現実を変えられないとして、それをどのように見るかによって見る人自身の幸福の度合いが違ってきます。空のコップに半分も水が入っていてラッキーだなーと感じる人と「なぜ半分しか入っていないんだ」とプリプリする人ではどちらが幸せでしょう？何事も好意的に理解して楽しく生活するのがアメリカ人なので、アメリカ人は人を賞めるのが上手なんです。「良くて当たり前。ちょっとでも間違ったり、欠けていたりするとすぐに文句を言う」日本人の態度と大違いです。ですからアメリカ人の口からは相手の人への賞賛がすぐに出てくる。

ただの Thank you だけでは、感激もエキサイトも伝わりません。でも何か良いところを見つけて、エキサイトしながら



コンプリメントは生活の潤滑油のようなものです。そうそう、食事の時にも必ずおいしいものに対しては「美味しい」と言ってあげるのは最低限の礼儀だね。これは毎日言ってあげてかまわない。さて、どう言えばいいかね？

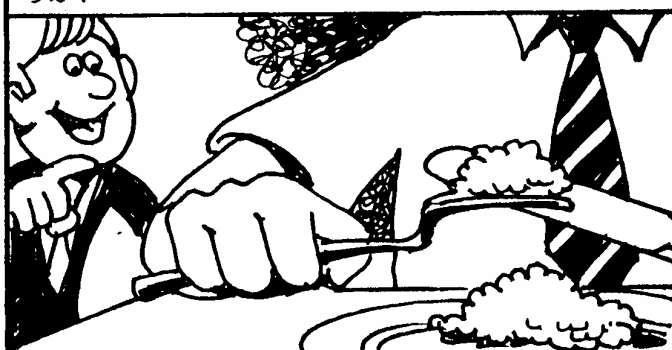


「おいしいです」にはどういう言い方がありますか？

中学校の英語で充分にいろいろなことが言えます

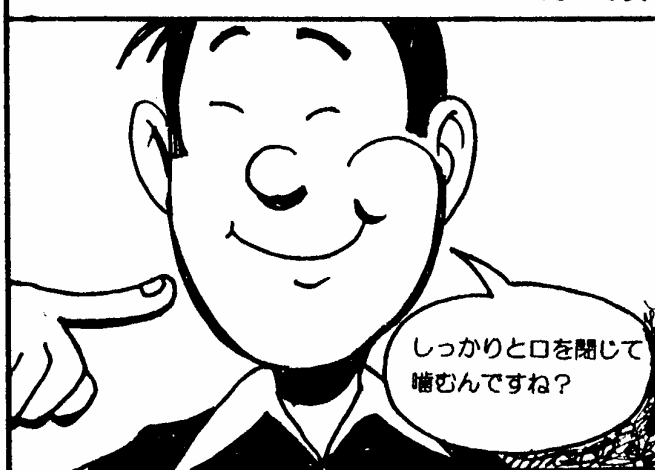


食事といえば、食事のマナーについて注意すべきことは何ですか？

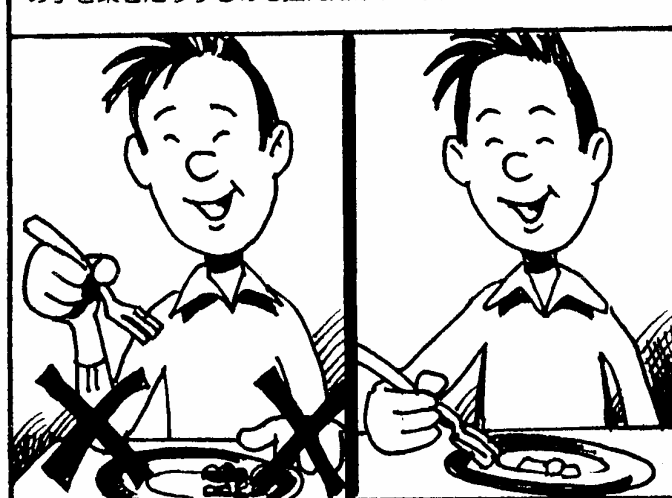


フォークの持ち方とかナイフの使い方などは全然気にする必要はありません。日本人がフォークの裏側にライスを乗せて食べる日本流のマナー??を見て、アメリカ人は首をかしげていますよ。誰もそんな食べ方をしませんから。

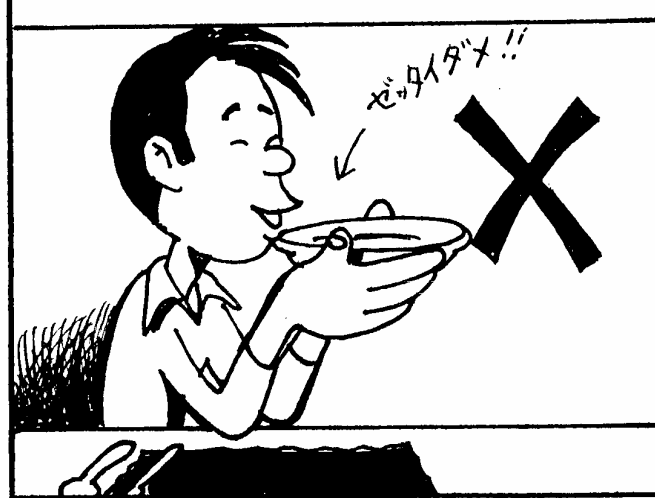
ただ絶対に注意しなければならないのは、音を出さないようにして食べることです。スープやそばをすすって食べるのは絶対タブーですし、口をあけてものを噛むのもよくないです。



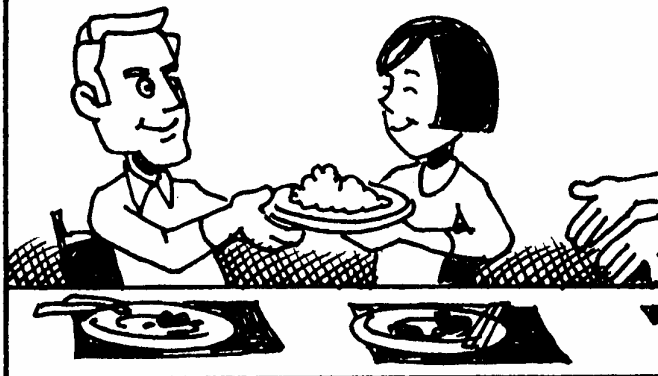
そう。それからテーブルにひじをついたり、使っていない方の手を乗せたりするのも控えたほうが良いです。



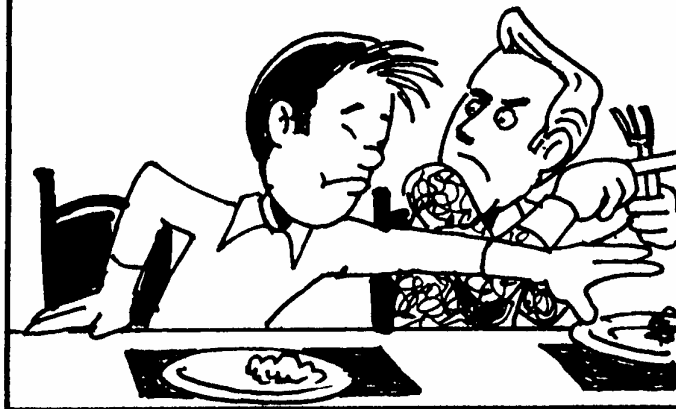
使わないほうの手はテーブルの下に置いておくことです。あとはお皿を持ち上げないこと。



日本では、それぞれの小皿にはじめから分けられています。アメリカでは皆の分が一つのお皿にのっていて、そのお皿をまわしながら、自分の食べる分を順次取っていくんです。ですからいつもお皿を横の人に回しながら食べます。



人に迷惑をかけまいとして、自分で手を伸ばして遠くにあるお皿や塩を取ろうとすると、かえって非常に失礼をしていることになります。取ってもらう、まわしてもらうことは全く失礼でないばかりか、そうすることが正しいマナーなんです。



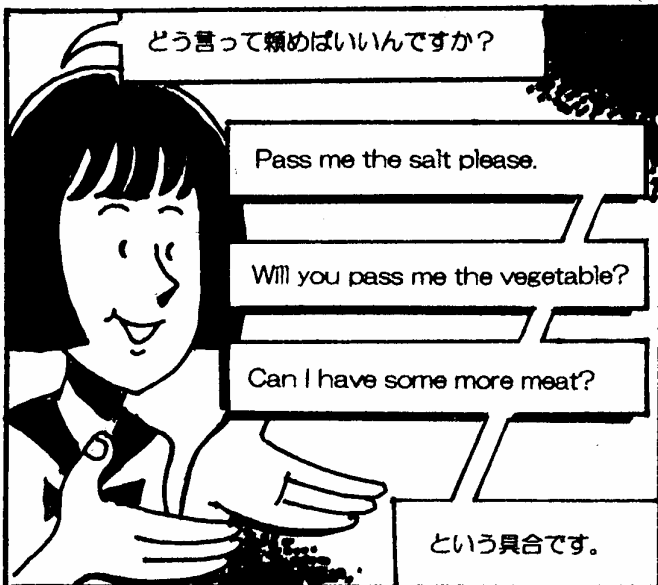
どう言って頼めばいいんですか？

Pass me the salt please.

Will you pass me the vegetable?

Can I have some more meat?

という具合です。



それから食事の際の最大のマナーは「話をしながら食べること」です。黙々と食べるなんて絶対だめです。ホストファミリーは君が英語が苦手なことは知っている。

だからと言って沈黙が許されるわけではない。君は家族の人と会話をしようという努力をしている誠意を示さなければいけないんだ。それは中学で学んだ単語を使えば充分だ。

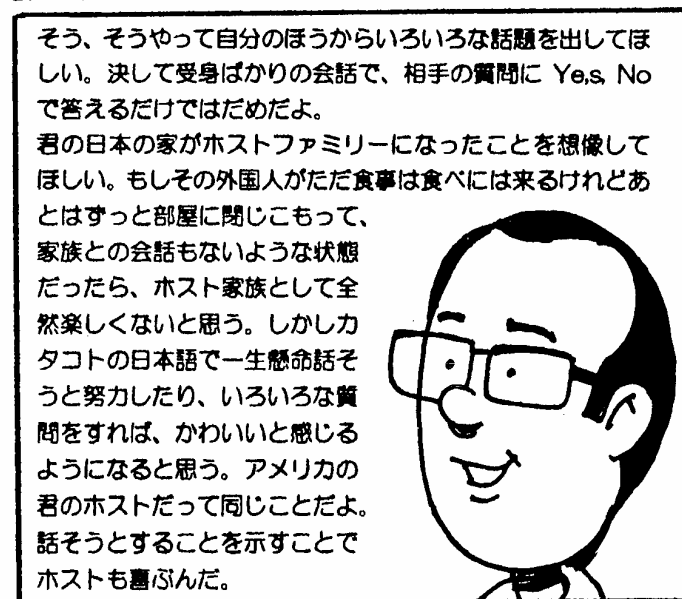
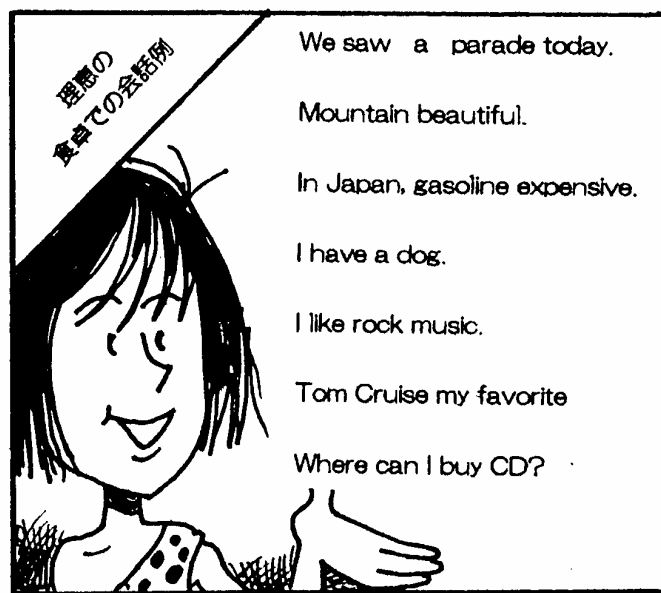
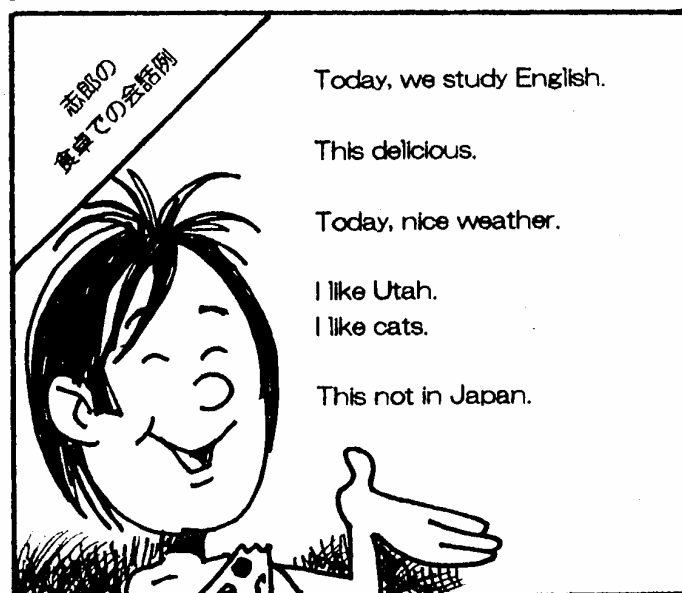


「中学で学んだ単語を使えばいい」という言い方に注目してほしい。「中学で学んだ英語を話せばよい」とは言わなかったよね。つまり文章にすることとか、文法のことは忘れて、ただ知っている言葉を順は気にせずに言えばいいんだ。



ターザンって知っているだろう？
ええ。ジャングルで育った人でしょう？





話題は変わりますが、アメリカでは朝シャワーに入るんですか？

そう。そういう人が多いけれど、君もそれに加わると、今まで打ち立てられている朝のスケジュールが狂いがちになるから、夜とか、帰宅してから入ったほうがむしろ良いかもしれないね。



お風呂は入っては大めですか？

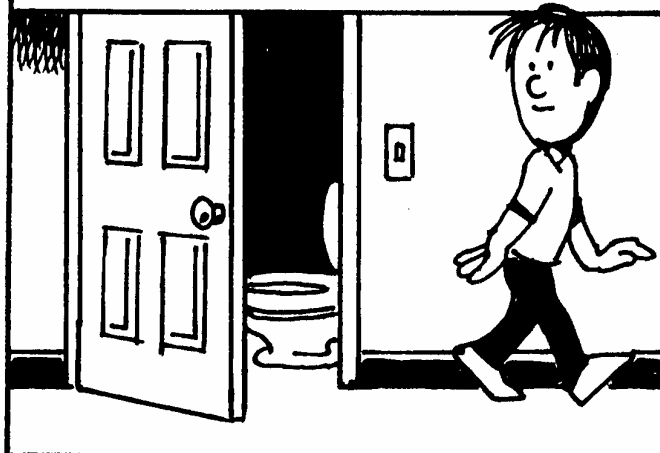
そして、さっと入ることだね。まあ5分くらいで。

え！5分でですか？

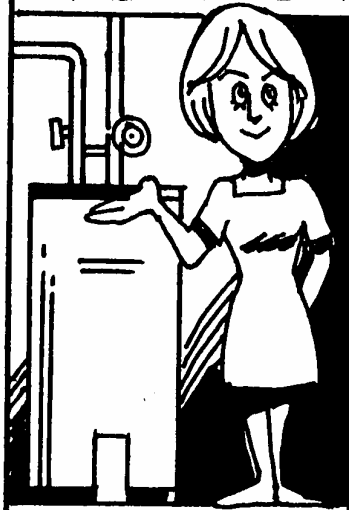
そう服を脱いだり、着たりする時間を含めて10分といったところだね。それより長くなるシャワーは禁物だよ。日本のように湿気の多いところでは風呂は良いかもしれないけれど、カラッとしているユタでは5分のシャワーで充分だよ。まあ、ホストの人たちがシャワーに入る時間がどのくらいかを見てそれに習ってもよいね。いずれにしてもサッと簡単に入ることを心がけてほしい。



たとえばトイレのドアも用が終わって出るときも少しドアをあけて出るんだ。つまり、もしトイレのドアが閉まっていたら、中に誰がいるということなんだ。

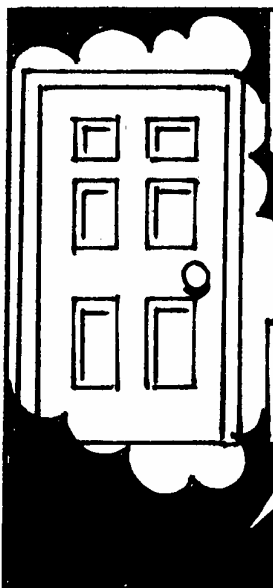


うーん。風呂は避けたほうがよい。お湯を大量に使うからね。日本の給油システムと違って、アメリカではお湯が永久に出てくることはないんだ。150リットルくらいのタンクに熱湯を貯めておくシステムなので、それが空になると、中の水をあたためるまで2時間はかかる。だから一人が風呂にはいるとあとの人のお湯がなくなってしまうし、バスルームを占領する時間も長くなる。「郷に入れば郷に従え」でアメリカではやっぱりシャワーにしたほうが良いよ。



てくることはないんだ。150リットルくらいのタンクに熱湯を貯めておくシステムなので、それが空になると、中の水をあたためるまで2時間はかかる。だから一人が風呂にはいるとあとの人のお湯がなくなってしまうし、バスルームを占領する時間も長くなる。「郷に入れば郷に従え」でアメリカではやっぱりシャワーにしたほうが良いよ。

それからもう一つ注意してほしいのはドアのことだね。



どこでもきちんと閉めておくって いうことでしょうか？

いやその反対。決して閉めてはいけないーということだよ。

えー、本当ですか？？？

だからもし間違えて、使ったあとドアを閉めてしまうと、中には誰もいないのに、誰もトイレを使えないという事態になってしまう。



ノックをすれば良いのに！

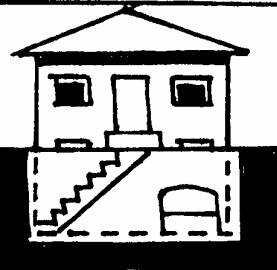
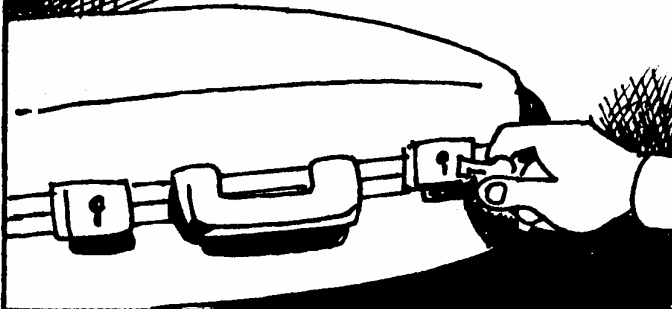
あー、それは日本の風習だけれど、アメリカの風習ではないよ。トイレのドアをノックするなんてアメリカではとっても失礼なことなんだ。だから誰もそんなことはしない。決して閉まっているトイレのドアをノックしてはいけないよ。



トイレだけではなくて、自分の部屋に入っても、ドアは閉めないで少しあけておくのが礼儀だよ。ぴったり閉めてしまうと「誰とも交流したくない」という表示をしていることになるんだ。

まあ、ベッドルームに入るのは夜寝るときだけのはずだよ。日中のプログラムが終わって家に帰っても、皆のいるところにいるべきで、自分の部屋に閉じこもってはいけないよ。

朝、部屋を出るときも、部屋のドアは閉めないで部屋を出るべきだね。貴重品とか現金はスーツケースの中に入れてロックしておけば良い。決して現金を机の上なんか置いておかないこと。ホストの人たちが信用できないというのは絶対ないけれど、たとえば子供たちに不必要な誘惑を与えないためにもね。



統計的に言うとユタ州の家はアメリカ50州のうちで最も床面積が広いそうだ。これは比較的家族構成員数が多いことと、土地が比較的安いことに起因していると思う。だからといってベッドルームはそんなに大きくないよ。寝室はベッドが一つか二

つはいる大きさだけだ。米国東部とか南部だと、地下はあっても倉庫のようにして使うような場合も多いんだが、ユタの土地は乾いているから地下でも、リビングスペースとして使えるんだ。だから君たちのベッドルームが地下である場合も多いと思うよ。

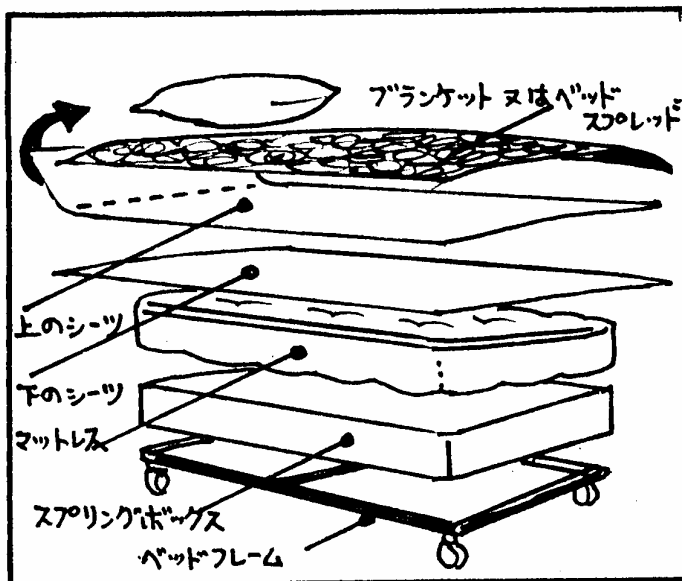
アメリカ人と日本人の体感温度も明らかに違う。アメリカ人には快適でも日本人には少し寒く感じ、日本人には快適でもアメリカ人には暑く感じるんだ。だから地下のベッドルームで少し寒いと感じたら、ブランケットをもう一枚もらおうといいよ。



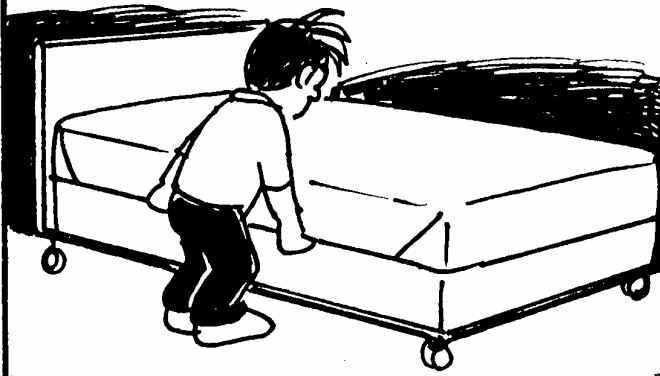
ベッドについてだけだね、朝、家を出るときはちゃんとベッドをきれいに整えてから出るのがマナーだよ。ベッドメイキングと言うんだ。たとえホストの子供たちはやらなくても、君たちは自分のベッドを整えてから家を出るようにしてほしい。

でもどうやってやるんですか？

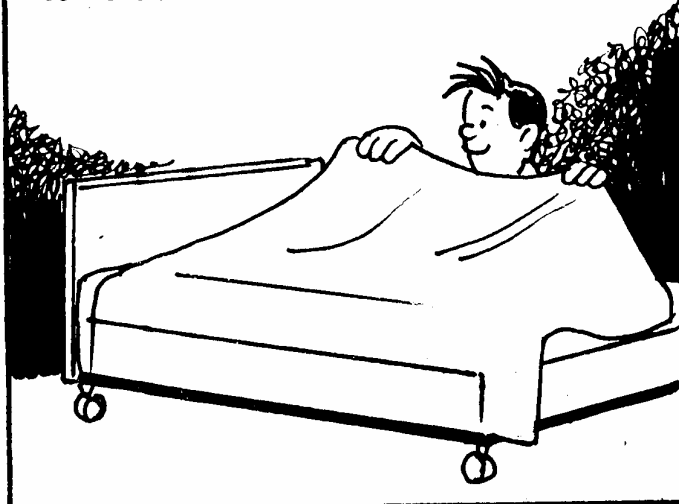
そんなに難しくないよ。アメリカのベッドは次のような仕組みになっているんだ。



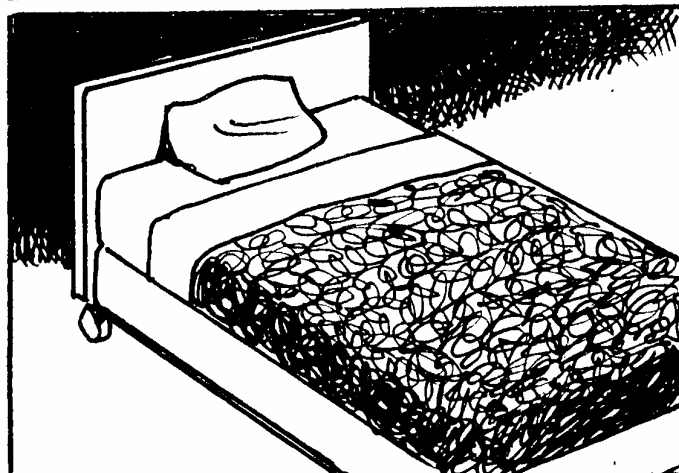
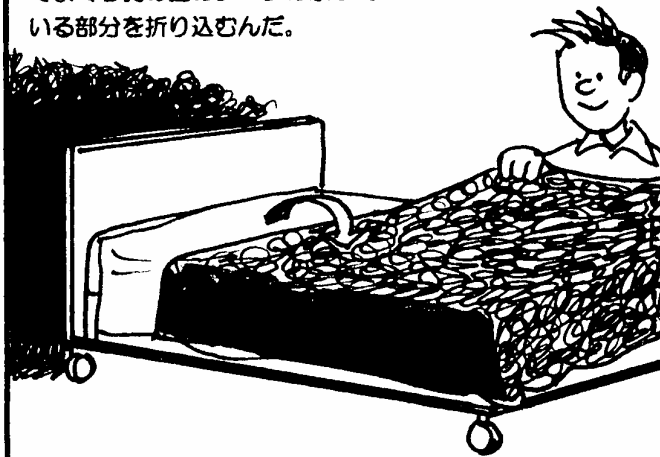
まず下のシーツでマットレスを包む。このシーツはただ一枚のシーツであることもあるし、まわりにすでにゴムが入っていて包みやすくなっているシーツのこともある。一枚のシーツのときは角をきちんとマットレスとボックスの間に折り込む。



その上にもう一枚、上側のシーツを載せる。寝るのはこの上のシーツと下のシーツの間だよ。



さて上側のシーツを置いたらその上にベッドスプレッド（いわゆるふとんの薄いもの）とかブランケットを乗せる。そしてまくら側の上のシーツの余っている部分を折り込むんだ。



朝、家を出るときは、いつもこのようにちゃんとベッドを整えていってほしい。ものの2、3分かからないことだからね。

日本はふとんをベッドの上にただ置いたというような感じのベッドが多いけれど、本場のやり方はちがうんですね。



そう。本当のやり方を知っておくのも損はないし、将来役立つこともあると思うよ。

ホームステイは素晴らしい機会だよ。だけれども、ホームステイについて、日本とアメリカでは考え方がちょっと違うね。それを私が悟ったのは、この町でアメリカからの高校生を受け入れたのを見た時だよ。



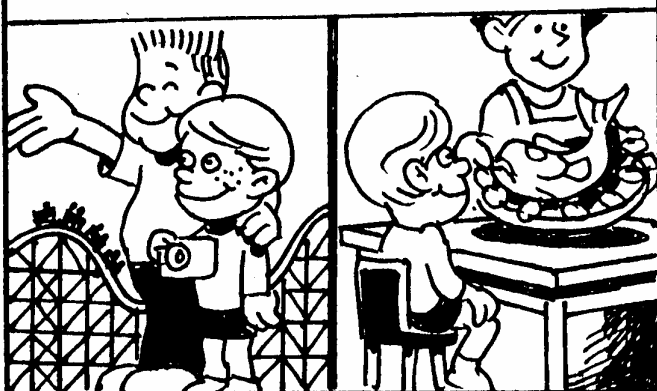
まあ、遠来の客をもてなす「日本人の心」といえば格好いいけれど、ホストをしたたった5日間のもてなしでホストになったどのお父さんたちもお母さんたちもへとへとに疲れてしまったんだ。もちろん、ステイをしたアメリカ人の子供たちは良い思い出をしたんだけど、果たして彼らが日本人の日常の食事や、日常のありきたりの一日を経験したかは疑問だね。



ホームステイというのは日常の生活を体験することだ。アメリカ人はそれを心得ている。日本人のように背伸びをして、普段より良いところを見せようなんてことはないんだ。特別のごちそうもないし、ありきたりのアメリカの生活を体験するだけだ。



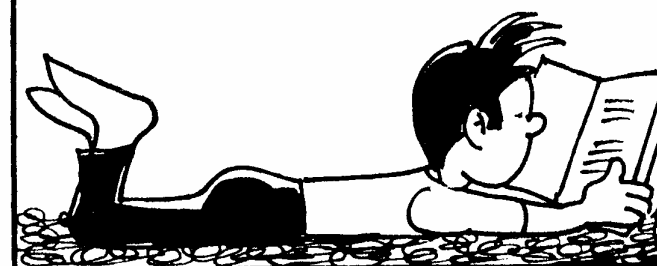
町をあげてのすごい歓迎ぶりだった。ホストになった家のお父さんたちは、会社を休んでまで遠くの遊園地にステイした子供を連れていったし、ホストのお母さんたちは一日かけて豪華な手料理を作ってもてなしたんだ。



だから日本人が逆にアメリカでホームステイすることが決まると、アメリカのホストがいろいろなところに連れてってくれる、おいしいものを食べさせてくれる、王様のように扱ってくれるという期待があるかもしれないけれど、期待はずれになる可能性が強い。日本のホームステイについての誤った考え方をもとに、アメリカのホームステイを想像してしまうのは正しくない。

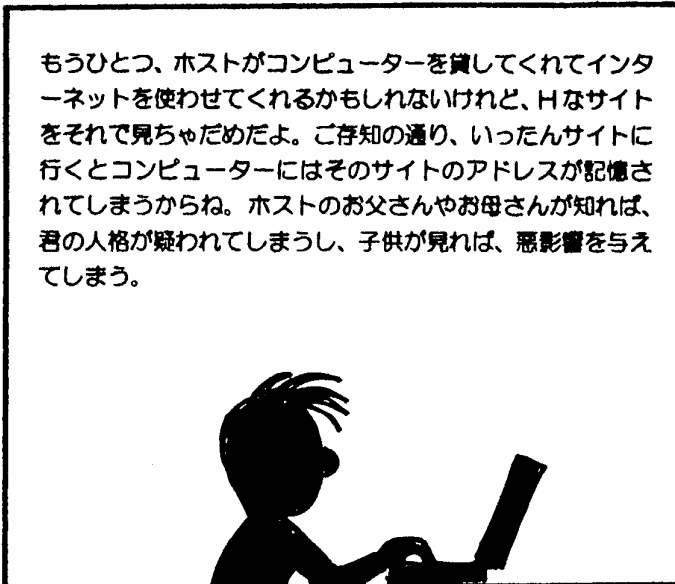


だから奥さんが、「買い物に行くけど、一緒に行く？」と聞いたら、積極的にどこにでもついていって何でも体験したらいいんだ。あとは、ごく普通の生活があるだけだと思うよ。だから自分だけで過ごす時間があっても、自分で工夫して退屈にならないようにしなくちゃね。もちろん、ホストがちょうどレクリエーションを計画していて、それに便乗できるというラッキーな場合もまれにはあるかもしれないけど。

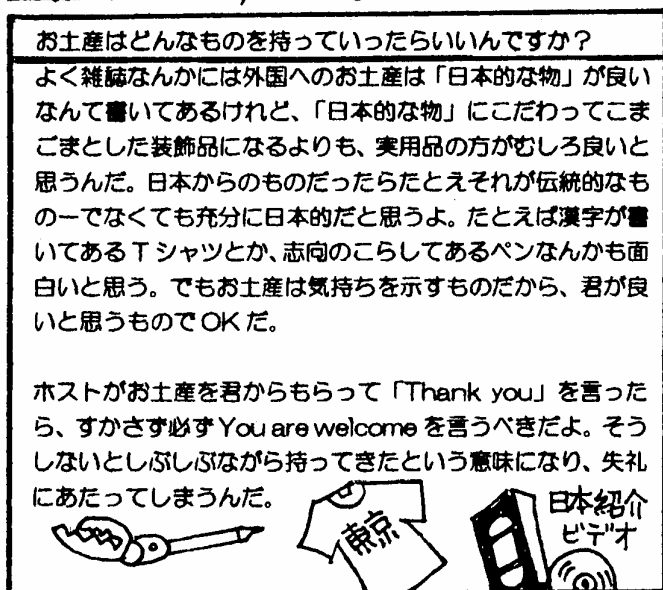




メディアに描かれているアメリカつまり、ドラッグが氾濫し、セックスも自由というのは現実とはほど遠いよ。だからたまたまホストに年頃の異性のティーンがいたら、「ロマンチックなアドベンチャーもあるかもしれないな」という期待は絶対に持つべきではないし、そんなことをちょっとでもしたら大問題になるよ！



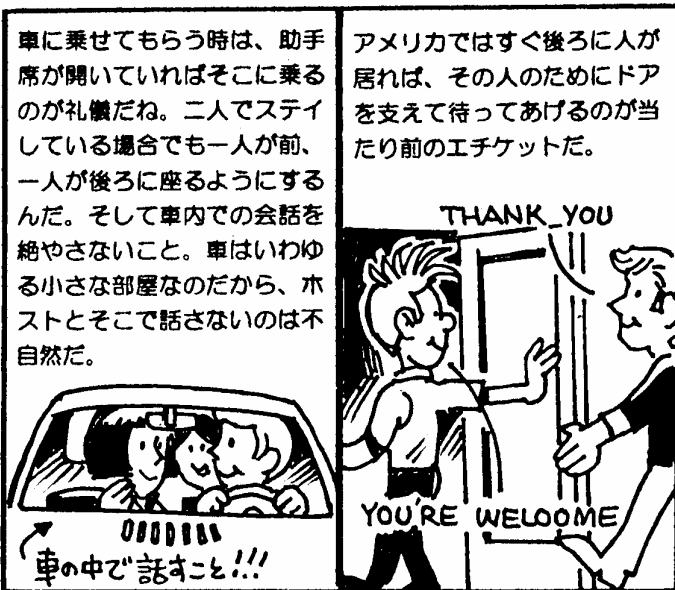
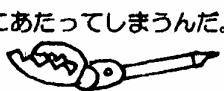
もうひとつ、ホストがコンピューターを貸してくれてインターネットを使わせてくれるかもしれないけれど、Hなサイトをそれで見ちゃだめだよ。ご存知の通り、いったんサイトに行くとコンピューターにはそのサイトのアドレスが記憶されてしまうからね。ホストのお父さんやお母さんが知れば、君の人格が疑われてしまうし、子供が見れば、悪影響を与えてしまう。



お土産はどんなものを持っていったらいいんですか？

よく雑誌なんかには外国へのお土産は「日本的な物」が良いなんて書いてあるけれど、「日本的な物」にこだわってこまごまとした装飾品になるよりも、実用品の方がむしろ良いと思うんだ。日本からのものだったらたとえそれが伝統的なものでなくても十分に日本的だと思うよ。たとえば漢字が書いてあるTシャツとか、志向のこらしてあるペンなんかも面白いと思う。でもお土産は気持ちを示すものだから、君が良いと思うものでOKだ。

ホストがお土産を君からもらって「Thank you」を言ったら、すかさず必ずYou are welcomeを言うべきだよ。そうしないとしぶしぶながら持ってきたという意味になり、失礼にあたってしまうんだ。



車に乗せてもらう時は、助手席が開いていればそこに乗るのが礼儀だね。二人でステイしている場合でも一人が前、一人が後ろに座るようにするんだ。そして車内での会話を絶やさないこと。車はいわゆる小さな部屋なのだから、ホストとそこで話さないのは不自然だ。

アメリカではすぐ後ろに人が居れば、その人のためにドアを支えて待ってあげるのが当たり前のエチケットだ。



ホストファミリーはどんな人たちでしょう？

じゃあ逆に尋ねるけれど、「アメリカ人」ってどういう人だろう？

アメリカ人？



ほんとうのアメリカ人は「アメリカ原住民」かな？でもいわゆるこのアメリカン・インディアンは人口の0.3%以下だからあまり会う機会もない。残りのアメリカ人は全部ほかの場所から移り住んで来た人たちだ。彼らはヨーロッパ、アフリカ、南アメリカ、アジア、南太平洋の島々などから来ているわけです。

だから白い肌の人もしれば、色のついた肌の人もある。ちがれている髪の人もしれば、金髪もある。赤毛もしれば茶髪も黒髪もあるという具合で千差万別だ。だから固定観念は持たないほうが良い。日本だと皆同じ黒髪だし、皆同じような顔

かたちっをしてるし、皆同じテレビを見て、皆同じ雑誌や新聞を読んでいる。だから皆あるていと同じようなことを考えている。でも世界中からの移民から構成されているアメリカは、そんな日本のように単純じゃない。あらゆる顔かたち、あらゆる考え方、あらゆる習慣が入り乱れるバイタリティーあふれるところだ。

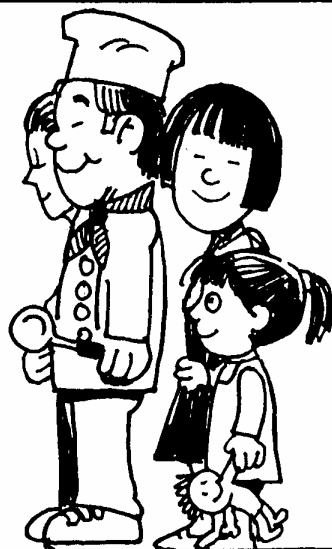


立派な家に住んでいるかどうか、すごい車に乗っているかどうか、どんな肌、どんな色の目、夫婦共稼ぎか、仕事が医者なのかガードマンなのか、が君のホームステイの成功、不成功を決めるんじゃないんだ。前にも言ったように、ホームステイの基本理念は君がごちそうを振舞ってもらって楽しませてもらうことではない。君が一生懸命ホスト家族と話しをする努力をし、家のまわりの手伝いを行い、愛を注ぐときに、自分から感じる満足感の大きさと成功の度合いを計るべきだよ。



もう一つホストファミリーに関して言えば、研修に参加する君たちの家族と似ていると言える。つまり君たちの家庭だってあらゆる経済状態の家庭があるだろうし、母子家庭のところ、一人っ子のところ、子沢山のところ、共稼ぎのところもあるだろうし、いつも家の中がちらかっている家庭、整理整頓がされている家庭もあるだろう。

アメリカのホストも同様で、いろいろな境遇、環境、経済状態の人たちだ。ただホストに共通していることは、このような国際交流の場に率先して参加して、自分の子供に国際的な刺激を与えようとか、子育てが終わったから、自分たちの家庭を通してアメリカを見てもらおうとか、思っている人たちなんだ。君の家庭環境、性格、学力、趣味、習慣、人種がどうであれ、ホストの人たちは君たちを受け入れてくれようとしているのだから、君たちも同様に、ホストがどのような環境にあっても仲良くやっていこうとする心構えが必要だね。



ホストのところでは
どんな料理が出るんでしょう？

ほとんどの日本人はアメリカ人が毎日のように肉を食べていると思っているけれど、そんなことは全然ない。あるとき、一人の日本人生徒が、引率の先生にホストの家の食事はまずくて食べられないとぐちをこぼしたんだ。そうしたらその先生は「それは良かったね。君の口に合う食事を作ってくれる日本のお母さんに感謝の気持ちを持てたろう？」と言っていたんだ。つまり、おいしいものを振舞ってもらうのがホームステイの目的ではないということをその先生も認識されていたんだ。そのホストの食べているものが君の口にあれば、しめたものだが、たとえ口に合わなくても、それはホームステイの貴重な経験だと思うよ。ああ、アメリカ人はこういうものを食べているんだーということが体験できればそれは貴重な経験だ。

ホストの家族に着いてから、日本の親に電話をするのは君のつとめだと思う。だって親は君のために研修費を出してくれるんだろう？だから無事にアメリカに着いたこと、ホストと楽しくやっていることなどを伝えて安心させることは義務だともうよ。日本でテレホンカードを買ってきても良いし、アメリカで買っても良い。そしてテレホンカードはホストの電話でも使えるんだよ。夏はユタの時間に3時間を加え、夜屋を反転したのが日本の時間、冬は4時間加えると日本の時間がわかるよ。



忘れてはならないのは、君にとってホームステイの時期は一種のバケーションかもしれないが、アメリカのホストにとっては忙しい日常生活の最中なんだ。だからいろいろ家のまわりの手伝いをやってあげなくちゃいけない。食事のあとの自分の食器の後片付けは当たり前だね。そして皿洗い、芝刈り、草むしり、洗濯、犬の散歩、掃除機かけ、窓拭き、靴磨き、などなど、できることはたくさんあるよ。アメリカではこれらは主婦の仕事というより、子供も大人も家族の人全部でこういうことをするんだ。だから君たちも行うのは当然だよ。



家事は言われるのを待ってやるのではなくて、自分から買ってでてやらなくちゃね。

どういう風に言えばいいんですか？

じゃ逆に質問するけれど、「行きましょう」って英語でどういう？

レッツゴーでしょう？

そう。LET'S GO, つまり文字通り Let us go. 我々 (us) を行か (go) させて (let) ということだから「行きましょう」ということになる。



その同じ言い方を使うんだ。つまりUsの代わりにMe, Goの代わりにやろうとしていることを言えばいい。

だから「お皿を洗わしてください」は
"Let me wash dishes."

「掃除機かけをさせてください」は
"Let me vacuum the room"

「芝刈りをさせてください」は
"Let me mow the lawn"

「日本料理を作らせてください」は
"Let me cook Japanese food"

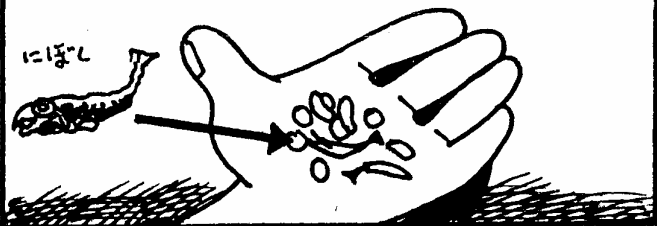
May I help you? という言い方もできるけれど、そういう消極的な言い方ではなくて、「何か家の手伝いをやりたいんだ」という積極性を示す"Let me"を使った言い方でどんどん手伝ったら良いよ。

それから日本食のことが出たところで、日本食をごちそうしてあげるのは良い交流になると思うけれど、アメリカ人の好きそうなものを作ってあげた方が良いね。

たとえば、どんなものは避けたほうが良いですか？



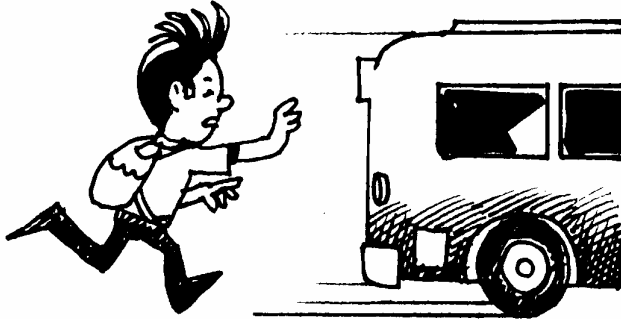
ソーメンは当たり外れがある。まあ半分以上のアメリカ人は好きではないようだね。みそ汁も(魚の)だしの味とかに抵抗がある人が多く、飲むのに勇気が必要とするみたいだね。ヤキソバ、てんぷら、とんかつ、奥のたくさん入ったためご飯などは比較的無難かもしれない。それから食事ではないけれど、スナックでピーナッツやかきのたねと一緒ににぼしが入っているのがあるだろう？あんなのを見せたら、気持ち悪がるから、絶対に見せないほうが良い。



絶対に見せないほうが良いものはもう一つ、日本からのマンガ、週刊雑誌類で、きわどい場面が描かれているもの、ヌード写真が載っているようなものは、子供たちにも大人にも見せないほうが良い。意外かもしれないけれどアメリカはある意味で日本よりも保守的なんだよ。



こちらのバスは意外といいかげんで時刻表に書いてある時間より早めに来てしまうときがある。だからバスの出発予定時間ぎりぎりに行くのではなく、10分くらい前にバス停に行ってバスを待つようにしたほうが良い。乗り遅れると、次のバスまで1時間は待たされるよ。



アメリカの、そして特にユタの住所システムは日本より解りやすいよ。日本では地域に番地をつけていくね。たとえばあるブロックが1丁目だとすると1丁目1番地、2番地、3番地というふうにつけていく。だから1丁目3番地の東側は2丁目1番地、南側は4丁目7番地といった具合で、並び方はまったくデタラメで初めてのところに行くには町内会の看板にたよるしかない。

6 5	7 6 5	7 6 5
1丁目 4	8 2丁目 4	8 3丁目
2 3	1 2 3	1 2 3
6 5	7 6 5	7 6 5

ところがアメリカでは通りに番地がついているんだ。そして片側が偶数番号、反対側が奇数番号になっている。だからたとえば「サンセット通りの350番」と言っただけで、その目的地はサンセット通り上にあってサンセット通りの初めから数えて350番のところの偶数側ということがすぐわかる。ユタの場合、名前のついている通りもあるんだけど、通りの名前自体が数値のことが多いので、なおさら解りやすいんだ。

1ブロックは100番

601 651 699	700 East	701 735 799	800 East St.	801
SUNSET STREET				
602 650 700		702 740 800		802

ユタの場合、山があるので、方角を知るのがとっても簡単だ。大きな山が見えればそれは東側だと覚えていてほしい。



タバコを吸う人へのアドバイスだけれど、タバコを吸わない人にとって服についているタバコの匂いは不快なものだ。本人は気が付かないかもしれないが、不快感を与えないように家に戻ったら着替えるとか頻繁に洗濯するなどして配慮してあげなければならない。またタバコは家の中では絶対に吸ってはいけない。外でもどこで吸ったらよいかを尋ねること。また家に小さな子供がいる場合、子供が見ている前で絶対に吸わないようにしてほしい。



万一、迷子になったり、バスを間違えて遅れるようなときはコーディネーターか引率の先生に連絡を入れるべきだよ。また迷子になって助けが必要なときは、ホストやコーディネーターに電話する前に、まず自分がどこに居るのかということを知ってから連絡しないと、迎えに行きたくても行けないことになる。何通りと何通りの交差点だとか何通りの何番地かということ把握してから連絡するといいね。

ホームステイに関して問題、苦情があったら、我慢しないでホストに自分の心情を伝えて問題を解決しなければいけないよ。自分で処理できる問題は自分で解決を計たらよい。たとえば夕食ときでお腹がすいているけれど、食事の気配がない。こんなときは、お腹が空いているが夕食はいつなんだとホストにはっきりと当事者から尋ねたほうがよい。自分では言いにくい場合はもちろんコーディネーターの助けを求めてもよい。また他の問題でコーディネーターの仲介が必要な場合もただちにコーディネーターに連絡してほしい。日本に戻ってから苦情を言ったって、状況を正すことができないんだからね問題を解決できるときにコーディネーターに連絡することが大切だ。

連れて行ってもらいたいようなところがあれば、ホストに君の希望を遠慮なく伝えることだ。そうしないとホストだって君が何に興味があって、どんなところに行きたいのか解らない。もちろん君の希望がかなえられるかどうかは判らない。ホストの都合もあるからね。でもモールは午後9時まで開いているし、ウォルマートのようなデパートは11時まで。スーパーマーケットは24時間営業だ。夕食をとってから充分に連れて行ってもらう時間はある。



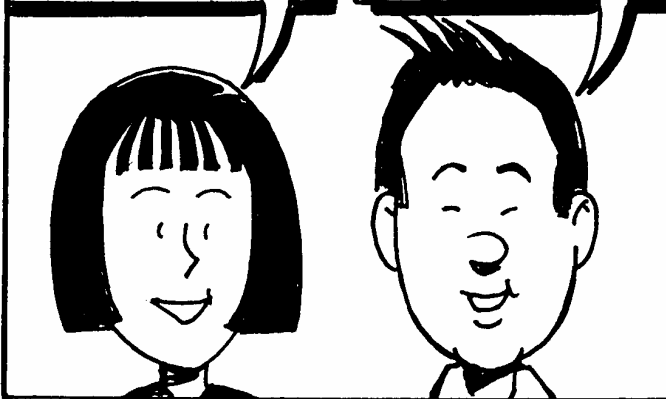
こうしなさい、ああしなさいと言われるまで何もせず、指示を待つという消極的な姿勢はアメリカでは通用しない。退屈だったら、近所を散歩してくるとか、自分でテレビをつけて見るとか、本を読む、ゲームをするなどいろいろ工夫する必要がある。

慣れてくると研修後すぐに帰宅しないで寄り道をして帰る者も増えてくるようだが、そのようなときにはかならず、帰宅時間を前もって伝えておく必要があるよ。

覚えておいてほしいのは、日本は同じ家庭内でもそれぞれの行動は別々ということがあられるけれど、アメリカでは家族で行動を共にすることが多い。だから家族を気遣ってあげ、家族と別行動をするのを最小限にとどめてほしい。

わかりました。私は同僚の由佳さんと相談してホストといつも時間を過ごすように努力します。

僕はシングルのステイでちょっと心細いんですが頑張ります。



そうそうダブルステイとシングルステイについてだけだね、シングルステイのほうが英語を話す機会が多くなるからそのほうが理想と一般的に考えられる傾向にあるけれど、必ずしもそうではないよ。



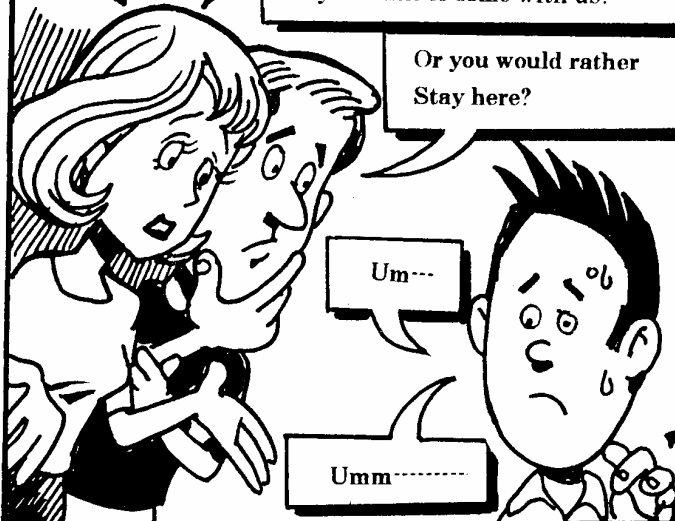
困っているホスト

Shiro, what do you prefer to do?
Do you want to come with us?

Or you would rather
Stay here?

Um...

Umm.....

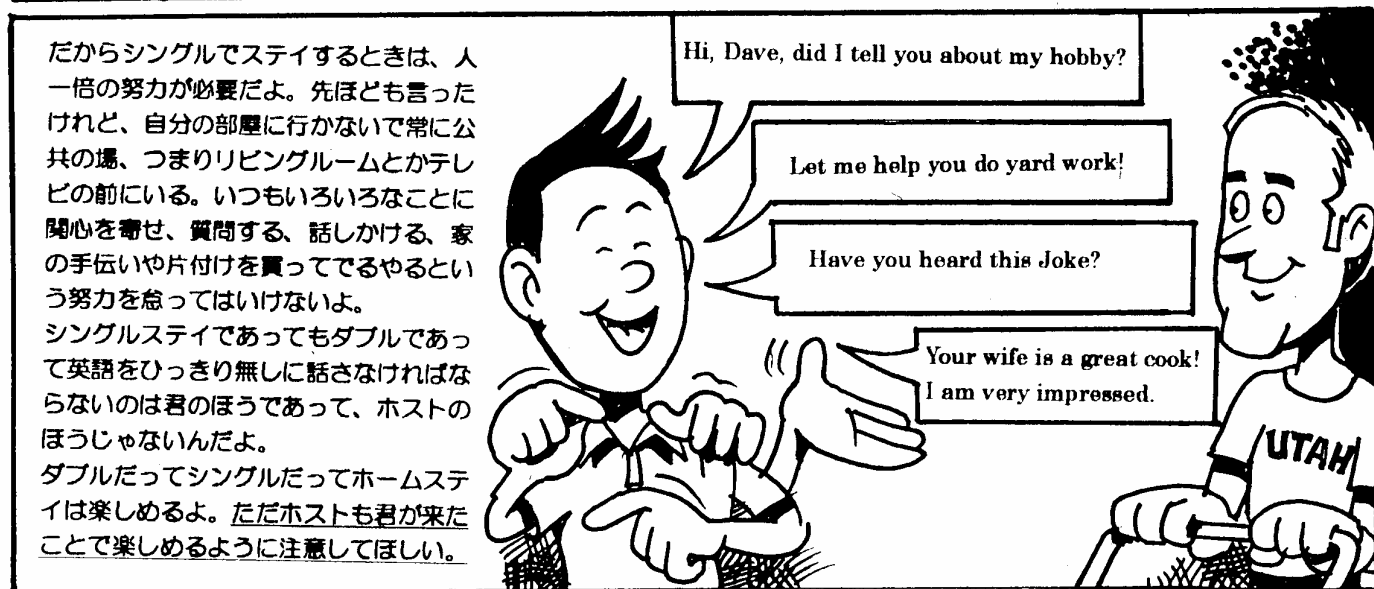
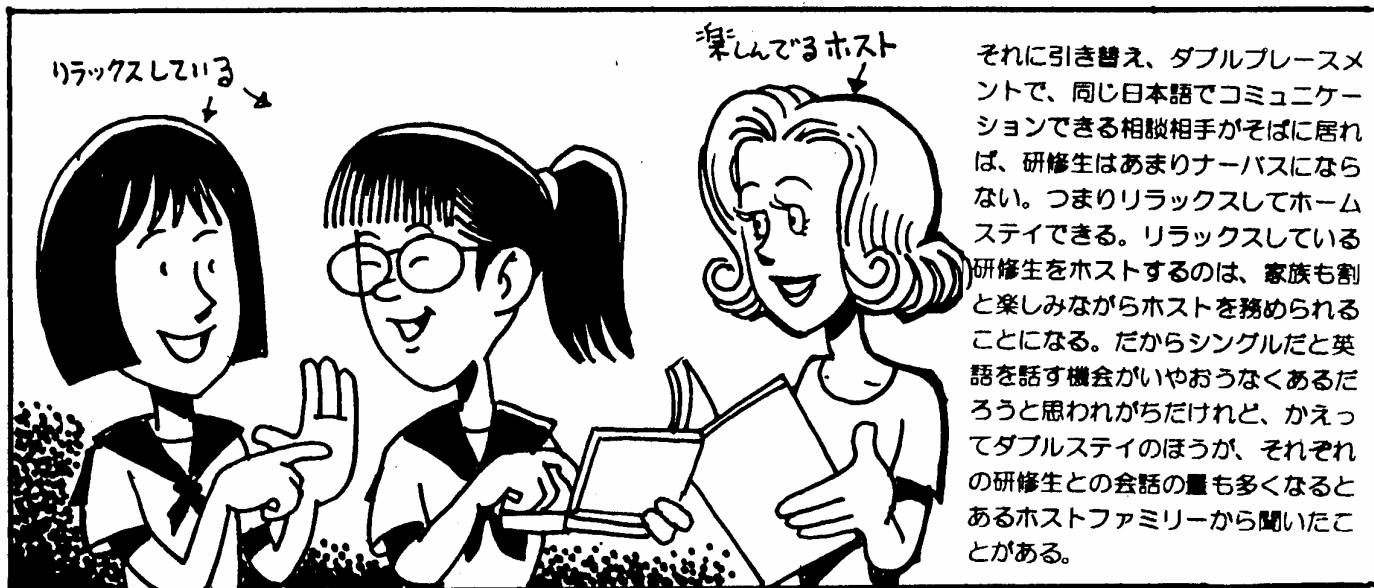


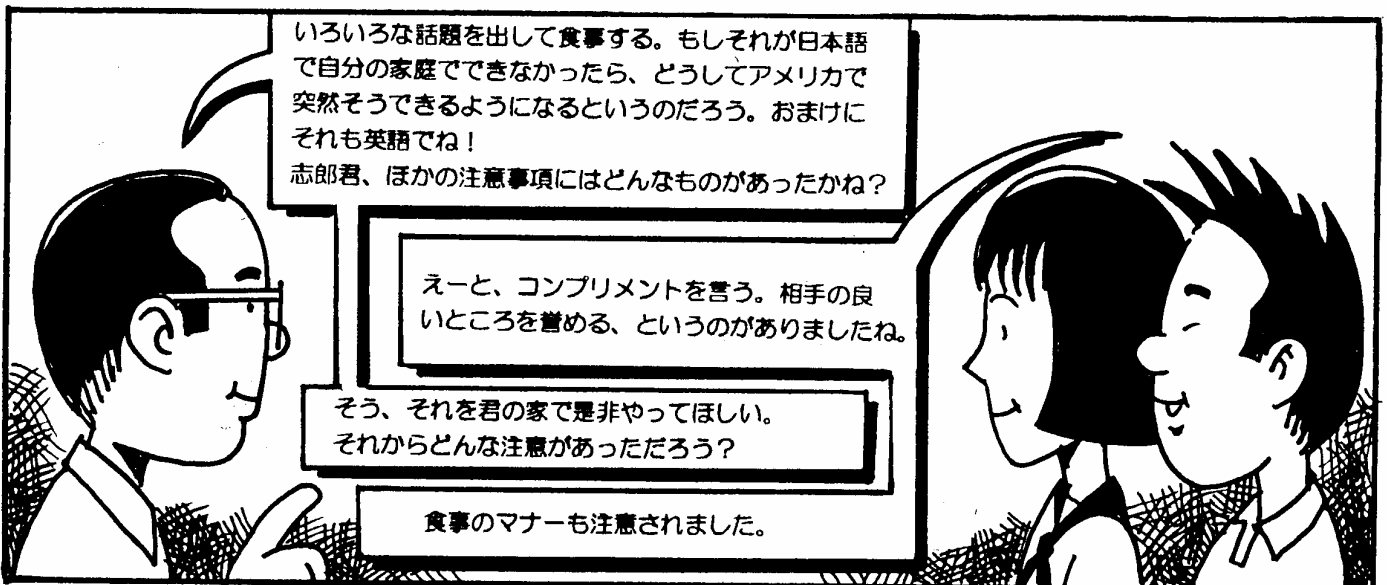
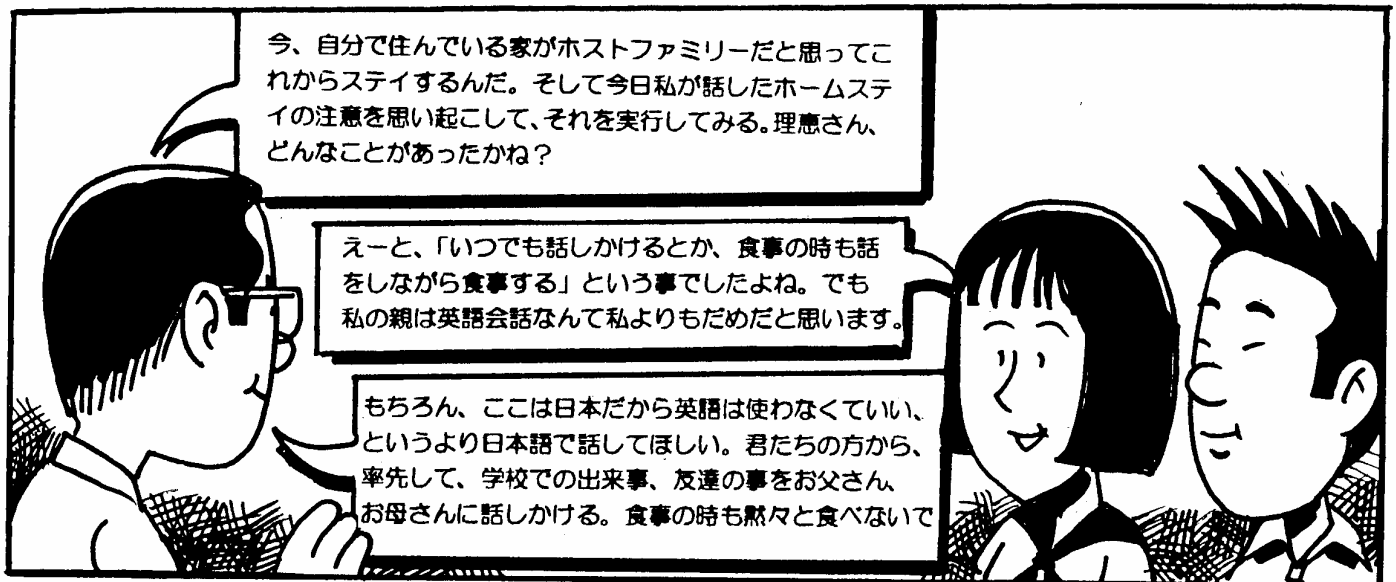
前にも言ったようにホームステイはステイする研修生とホストするホストファミリーの双方が楽しめなくては行けない。

もし、もともとおとなしい性格だったり、無口だったり、あまり外交的、社交的でなかったり、英会話がうまくいかなかったりすると、環境、習慣の違いが加わって、日本の研修生はとってもナーバスになってしまうことがある。ナーバスで、萎縮してしまって、会話を交わす努力をあまりしない研修生をホストすることは、ホストファミリーに苦勞をかけることになる。

だからそうしないように、シングルステイする人は、非常な努力をして、そうならないようにしなければいけないよ。

ナーバス (リラックスしていない)



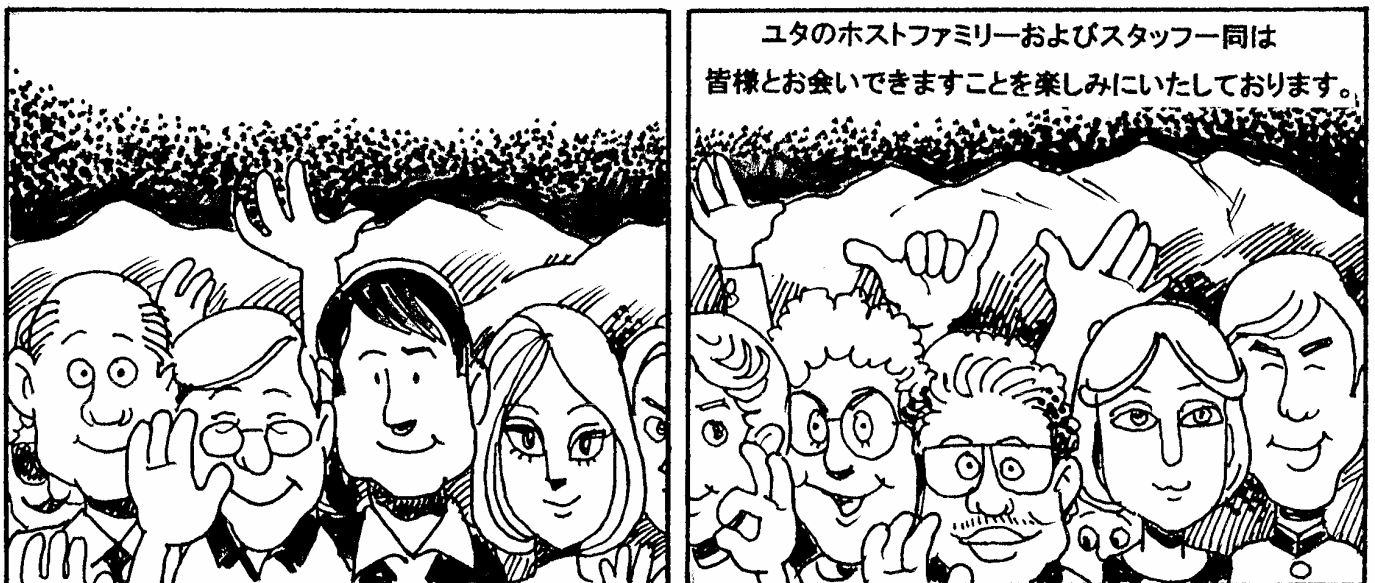


そう、日本の食事であっても、くちゃくちゃ音をたてないとか、すすったりしない練習をしてほしい。それから？

「ドアをあけておくこと。」

その通り、もちろんトイレのドアは日本ではあけっぱなしにはできないかもしれないけれど、自分の部屋に入ってもドアを少しあけておくことの練習はできるし、時々お風呂の替わりにシャワーにしてみて、早く入ってみることも練習になるかもしれない。朝、家族の人と目があったら、お早うを言うとかの簡単なことも、ホームステイの準備になるね。このようにして今から出発までの間、自分の家で日本語でホームステイしてみて、それが良くてできるようになったら、アメリカでもホストに喜んでもらえるホームステイができると思う。





■ホームステイ準備自己評価 Self Evaluation

(1:できない 2:なんとか 3:まあまあ 4:かなりできる 5:できる)

1. ホームステイは受身の体験ではない。私が自分で創り出す体験だ。私は積極的な姿勢をもってホストの家にステイする決意があるだろうか？ (1・2・3・4・5)
2. 私たち皆が異なるように、ホストもみな異なっている。自分のホストがどんなであっても、ホストファミリーに敬意を表し、愛していく心構えがあるだろうか？ (1・2・3・4・5)
3. ホームステイの間、私がアメリカの国、ホストファミリー、その土地の文化、風習、習慣などに関心を抱いていることを示す必要がある。私にはホストに常にたくさんの質問を投げかけてその姿勢を示す心構えがあるだろうか？ (1・2・3・4・5)
4. 英語を話すのは誰にだって簡単なことではない。でもホストとのコミュニケーションを怠ることはできない。私にはいつもホストファミリーメンバーのそれぞれに話しかける用意があるだろうか？ (1・2・3・4・5)
5. 特に車の中、食事のときに沈黙があってはならない。私は自分のほうから話を切り出す決意があるだろうか？ (1・2・3・4・5)
6. 私はゲストではない。ホストの家に来て自分が喜ばれる存在にならなくてはならない。私はホストの家事の手伝いを言われずとも率先して行う姿勢があるだろうか？ (1・2・3・4・5)
7. 相手のよいところを見つけて賞賛するのは、生活の潤滑油だ。私はいつもホストにコンプリメントを与える気持ちがあるだろうか？(出された食事がおいしかったら、すぐにそう言ってあげる心があるだろうか?) (1・2・3・4・5)
8. すべてが順調に行くとは限らない。でも問題があったら、決して我慢せず、問題解決していかなければならない。自分で解決できる問題もあるだろうし、コーディネーターや引率の先生に協力を求める必要のある問題もあるかもしれない。私は我慢せず、直面する問題を解決していく心構えがあるだろうか？ (1・2・3・4・5)
9. ホームステイ研修への参加を可能にしてくれる自分の親への感謝の気持ちを率直に伝える必要がある。それを適切な方法で行えるだろうか？ (1・2・3・4・5)
10. アメリカのホームステイを成功させるためには、今から自分の家で行うホームステイを成功させなくてはならない。今から出発までの間、自分の家でこのマニュアルに書いてある注意事項を実践していく心構えがあるだろうか？ (1・2・3・4・5)

合計点 44-50 準備できています。

38-43 あと一息です。頑張って自分を改善しましょう。

42 以下 出発までに 50 点になるように非常な努力をして自己を改善しましょう。